

「いばらき建設技術研究会だより」平成10年度第1号

1. いばらき建設技術研究会の設立総会が開催されました。

平成10年7月9日(木)、水戸市の茨城県総合福祉会館大会議室において午前11時からの理事会に引き続き、午後1時より約200名の皆様の参加をいただきまして設立総会が開催されました。総会では、設立趣旨の説明が行われ、議案として、規約・役員・平成10年度の事業計画および予算などがそれぞれ承認され、正式に「いばらき建設技術研究会」が発足する運びとなりました。準備に当たられた皆様には大変ご苦労さまでした。

(新しいばらき新聞掲載記事)

省 略

総会では、運営委員長である茨城大学工学部都市システム工学科の安原先生から、本研究会の設立までに至る経緯やその主旨等について次のようなお話がありました。

みなさん、今日は、研究会の趣旨説明と言うことですが、これにつきましてはのちほど会長さんから詳しくお話があるのではないかと考えております。すなわち施政演説という形でお話があると思いますのでそのお話と重複してもいけませんし、また会長さんと私で違ったことをお話しするという事になっても申し訳ございません。また、事前に調整も致しておりませんので、私の方からは極々簡単に説明をさせていただきたいと思っております。それで、簡単に申し上げますと会則(案)がございますのでその目的の所をお読み下さいということで終わりになってしまう訳なんです、それではあまりにも素っ気ないんで若干経緯を含めまして説明させていただきたいと思っております。

そもそもこういう形の会を持ってはどうかという話が出ましたのは、確か2年ほど前の茨城県建設技術協会の50周年記念行事の折りだったかと思っております。その時たまたま講演者としてお招きいただきまして出席させていただきましたが、その会の終わった後で県の方、それから民間の方を交えているいろいろな雑談をしております折りにこういったお話が出て参った訳です。その時、“昨今のように非常に揺れ動くこの業界にあって、共通の基盤に立ちながら官民学の技術者が集まり、明るくて夢のある業種へ展開できるような茨城県における共通の話題を取り上げて情報交換のできる場を作れないものか”という意味のことが話題になりました。そして、これも昨今のキ-ワ-ドになりつつある本当の意味での競争原理に立ち向かうことのできる体力のある業界にするためには、個々のグル-プ、それから個々の組織の技術力の共通レベルをあげることがまず大事なのではないだろうか、そのためには、直面する課題に対する共同の調査・研究等の作業を通じて、得られた成果とともに個々で開発して来た成果を公開できる場所を提供できるような研究会にしようではないかということになりました。こういったことを通じて個々の技術力を高めるとともに建設業および関連産業の社会的な地位を向上させ、一般市民や社会からその重要性についてより一層の認知を得る、そういう機会を作る期待も込められていたというふうに記憶いたしております。

大学の立場からだけ申しますと、そのようなことが可能になりますと若くて優秀な人材を大学

に集めることができますし、またひいては「彼ら」あるいは「彼女ら」 - 最近は「彼女」らが結構増えて参りましたけれど - その若い人たちに磨きをかけて世の中に送り出すことができるのではないだろうか、それが我々ができる重要な社会貢献の一つではないだろうかというふうに期待がされるところでございます。

従いまして、間違っても、この会が、社会あるいは一般の立場の市民の方々から御覧になって、何にか新しい談合の方法を模索しているのではないかというように誤解を招かないような開かれた組織と言いますか開かれた会といったものにぜひしたいものだなという気持ちが、今回のこの会の発足に係わられた多くの方々的一致した意見ではなかったかと思えます。

以上のような思いを込めまして会則の目的ができあがったのではないかと思っております。以上、大変簡単ではございますが目的の裏にあります私どもの思いを少し紹介させていただきまして趣旨説明ということにさせていただきたいと思えます。(拍手)

続きまして、会長に就任されました同大学工学部システム工学科の山形先生から、現在の建設関係を取り巻く社会情勢を踏まえて本研究会の必要性などに関する挨拶がありましたのでご紹介いたします。

会長に御推挙いただきました茨城大学の山形でございます。御存知の方も多いかと思えますが、都市システム工学科に所属しております都市計画とか交通計画というような仕事に携わっております。会長の挨拶の前に、発起人代表という形で本会の設立を呼びかけた者と致しまして、正会員で約500名近い方の御参加をいただき、本日「いばらき建設技術研究会」が設立される運びとなりましたこと、また皆様のご努力に対しまして厚く御礼申し上げる次第です。また、本日御多忙の中にも係わらずこのように多数の皆様の御出席をいただき、会則ならびに事業方針について熱心に御議論いただきましたこと、重ねて御礼申し上げる次第でございます。

本日、私、会長という大役を仰せつかりまして大変光栄に存じますとともに身の引き締まる思いでございます。微力ではございますが研究会の発展のために全力を尽くしたいと考えております。と同時に、皆様の御支援と言いますか、積極的な御参加を合わせてお願いさせていただきたいと思っております。

先ほど運営委員長をやっていただきます安原先生から趣旨説明がございまして、私の方の原稿にも趣旨の説明は安原先生の方でなさいましたと書いてございますが、お互いにも譲り合っている所があってこれではいけないな、ということを感じております。今後、むしろそれぞれが考え方を出し合って、そこで議論の中から新しいものを出して行く、そういう方向性が実はこの会の趣旨なのではないかと私自身反省している次第でございます。

先ほどの安原先生のお話の中にも少々触れられましたけれども、私たちが、今、迎えている時代の変革期というものは生半可なものではないという認識がまず第一なのではないかと考えております。経済のグロ - バル化とか地球の温暖化の問題、それから環境ホルモンという話もこの頃多く出てきております。地球規模での環境問題という話がございましょうし、それからいわゆる産業の空洞化に見られますように、人や企業や資本などが世界規模で動き回る、いわゆる地球時代と呼ばれる時代を迎えて、これは明治以来の第二の開国だというような捉え方もされているように思えます。また、いわゆる情報化の進展というものは非常に選択性の強い、競争性の強い、従

って効率への指向が強い、そういう社会になるだろうと思いますし、規制緩和というようなことの中で人間が社会制度により縛られて、区切ってその中で相対的な優位を競っていた社会が、いわゆるポ・ダレス化というような形で、これも非常に効率化というものが求められる社会になってくるのではないかと思います。身近なところでは、日立製作所が事業部制とか東芝が分社化という形で、日本が従来作ってきたいわゆる巨大組織を固定的に維持していくという体制は崩れてきておりまして、最近ではいわゆるバ・チャルコ・ボレ・ショオンというような言葉までいろいろ言われている。いわゆる社会構造自体が非固定的で、ネットワーク化された社会構造になっていくと言っているのではないかと思います。それから国民意識の変革も非常に急激に起こっておりまして、これは我々の建設という立場から見ると、街づくりのあり方、方向性といったものから行政の効率化、説明責任といったようなこと、それから市民参加ということもあると思いますし、組織と個人との関係なども非常に変わってくるのではないかと考えております。例えば終身雇用制といったものは、実際目に見えて崩れつつあるように思いますし、若い世代の企業への帰属意識といったものも変わってきているということもあろうかと思えます。茨城県という視点で見ても国際的にあるいは全国的に見て競争力のある地域を作っていくという点、茨城県としての個性らしさといったようなものを発揮して再構築していくとか、高齢化に備えた街づくり、特に茨城県は可住地面積が広いいわゆる分散型の社会でございますので、これから環境問題あるいはエネルギー問題という中でどういう地域づくりをしていくかといった問題、あるいは河川が多いというようなことを捉えてみましても防災的に安心できる街をつくっていくかなど多々あろうかと思えます。

そしてそれを実行していくに当たりまして我々の属しております建設の分野で見ましても技術力だとか、あるいは資本の蓄積の課題であるとか、地方分権化が進む中で地域の独自の街づくりを行っていく体制だとか、人材をどのように育てていくだとか、それから勿論コストだとか先ほど申し上げました政策評価とかアカウンタビリティと言いますか説明責任とかいろいろ取り組んでいかなければならない事があるわけでございます。こういう中で茨城県の問題を自ら解決していく、そういう知識、知恵それから行動を進めていく集積体として今回の「いばらき建設技術研究会」というものを設立させたいということが趣旨でございます。これが皆様の御賛意を得たということは、先ほど申し上げて参りましたような認識が皆様に共通のものとなりつつあると理解しているのではないかと思います。先ほど、ネットワーク構造と申し上げましたが、このような問題は多様性を含んでおり、かつ非常に大きな問題ですので、その解決に向かって多面的な検討を要するという点で、ネットワーク的な共同的な解決の道を探っていくというのが重要なのではないのかと考えております。これは、共同して達成するとともに、その共同体を形成する個々の組織、個人自体が確立されてくるということが非常に重要になってくるのではないかと思います。その意味で世界に対して国というものが確立しなければならぬ、国という中で県というようなあるいは地域というものが確立していかなければならぬ、地域の中で個々の企業なり行政体が確立していくあるいは充実していく、それから企業の中でまた建設技術者個々人が自立し充実していくというような階層的な構造でございますけれども、その中で個というものを充実していかなければならぬ、そうならない限り非常に情報性と選択性の早い社会ですから、いわば呼びがかからない、埋没してしまうという状況に立ち至るのではないかと考えております。

我々が主に担当しておりますインフラ整備と言うことを少し考えてみましても、まずインフラ整備のシステムがこれから随分変わってくるだろうと思います。官民の役割なんかもPFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)といわれるような形のものも起こってくる。それから入札方式にしても

プロポ - ザル方式とかいろいろ言われている。建設費の縮減といった問題もありますし、それから事業実施プロセスでの情報公開であるとか先ほどの説明責任とかの話もありますし、設計責任だとか実際に現場に当たっている人が責任を問われてくるといったことが生じてくるのではないかと。そういう中で先ほどちょっと申し上げましたように組織と技術者の関係もちょっと極論かもしれませんが、今までは個人というのかどちらかという企業に対する帰属性というのか忠誠心というのかそういったものが非常に大事にされていた中で、むしろこれからは能力というようなことで評価されてくる面が非常に強くなっていくのではないかと思います。それから、そういう帰属意識の中でも終身雇用ではなくてむしろやりたい仕事ができる所に動いていくというような人材の流動ということもあろうかと思います。そういう意味で組織と個人との間がある意味でゆるい関係になってくるのではないかと、そうなってくると建設技術者自身も資質とか技術の面で変わってこなければならない。

私は、主要なところとして土木建設技術者には三つあるいは若干小さな項目を付け加えて五つくらい要求されてくるのではないかなと思っています。第一に技術者個々人の専門的な能力、これは先ほど公を充実するという立場から見ると不可欠なものでございまして、公的な様々な資格を持つとか、複合的な専門分野を持つとか、それから社会科学の分野の知識を持つとか、そういったことがいろいろあるのではないかと思います。第二番目としては、組織に埋没しない技術者、ちょっと危ない言い方をしておりますが、こういう面がこれから問われてくるだろうと思います。それは、むしろある意味で組織を超えて社会とか環境とかそういうものに対する技術者としての責任というものがむしろ問われてくる時代になるのではないだろうか。ある意味からすると専門家としての倫理というか責任というかそういう面があって、結局非常に専門分化が進んだ中で見ると自分が今やっていることが環境なり社会にどう影響ををもたらすかという事を考えた時には、それは現場にいる者、実際にそのことをやっている者にしか分からないというそんな時代になってきている。そうすると本当に社会を良くしていく、あるいは環境を守っていく立場を取ろうとするとそこに現場にいる個々の技術者自身が企業との矛盾を感じながらも判断をしていかなければならない、こういうことが問われてくるのではないのかなと思っています。それから三番目は、いわゆる職業から離れまして市民としての健全な活動というものが問われることになってくる。我々建設業、特に企業にいらっしゃる方々は、茨城県あるいは日本中の各地にいらっしゃるわけですが、そういうところで地域のコミュニティ活動であるとかNPOであるとか、そういう中で専門的能力を発揮できる、こういうものを生かして参加し、アドバイスし、行動できる、こういう地域の知恵者といえますか地域で信頼されるようになる、これが我々建設関係の者が市民から信頼されていくために不可欠な条件なのではないかと思う次第でございます。そういう事を考えて参りますと我々の役割も一つの企業で一つの仕事だけやっていくということではなく、モビリティ社会といえますか、いろんな形で、職種転換というようなことが起こって参ります。そういう意味でそれに耐えられるとかあるいはそういうものを全てこなしていける多様な視点を持った人間として育てていくことが必要だと思っています。むしろいろんな分野を渡り歩いて、別の分野で培った知恵を他の所に生かしていくといったようなことが必要ではないかと思う次第です。

今申し上げたことは多分に私個人の意見を含んでおりますが、本研究会の役割という事をまとめてみますと、一つは茨城県の課題として地域づくり、環境づくり、建設技術制度など多々あると思いますが、そういうものを解決していく知恵と技術の集積体でありたいということが第一点でございます。二番目に単に集まりということではなく、そのような課題に取り組んでいく、あるいは解決していく主体的な組織でありたいということが二つ目になるかと思います。それから三つ目には、先ほど来申し上げておりますようなネットワ - ク型・共同型で仕事をしていくようなことが多くなる中で、様々な情報交換を

行って一緒に仕事をやる、いわばシンセシス(総合化)とでも申しますかそういうようなことを考えていく上でのル - ルとか、リストとかそういう情報を交換する場でありたい。それから、四つ目には先ほどやや強調しましたけれども自立した技術者づくりということを目指していきたい。最後にそういうこと全体を通じて建設業あるいは建設技術者への信頼を作り上げていくということが本会の課題なのではないかと考えているところでございます。

最後になりますけれども、本会は会員の皆様いろいろな形で御参加いただき、自らを磨くという性格を強めたらどうかと私個人は考えております。これからの時代というものは、一つの例を引いてみますと、学生のレポートをちょっと考えてみた場合、結構いいレポートを書いているんですね。で出典はどこかというインタ - ネットでパッと引いて写してくるんです。ですから知識みたいなものというのは、実はこれからいくらでも手軽に入ってくる、そうなってくると実は知恵というか、そういう知識をどう組み合わせたり、あるいは逆にその既存の知識の中で何が問題かとか疑ってかかるといった様々な知恵や、あるいは創造的な能力といったものがこれから非常に大事になってくる。こういうものは、いわば教える教えられるといった関係ではなくてむしろ自ら身に付けていく、やはりノウハウというべきものなのだろうと考えるわけでございます。本当にこれからの時代というのは価値創造の時代でございますので、むしろ先ほど来申し上げている参加や実践の中でやはり身に付けていく、それから結論以上にプロセスで出てくる議論の多様性といったものが非常に大事になってくる。そういう意味で、私もこれから研究会の方に移りまして分科会の方針等についてのお話がございますけれども、是非分科会を活性化させていきたい、あるいはいわゆる事務局等が作った分科会以外にも会員の皆様方が、これをやってみようではないかというような自発的な分科会というものが出来ることを期待している次第です。最後に当たりまして、本会の今後の活動に一層の御支援をお願いするとともに、一緒に学び活動するという中で茨城県の地域づくり、あるいは建設技術者としての自らの向上、こういうものを進めていくということをぜひ一緒にやりましょうという呼びかけを以て私のご挨拶とさせていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。(拍手)

なお、役員につきましては次の皆様に決まりました。敬称は略させていただきます。

会 長： 山形耕一

副会長： 山本来迎(自治体G)、方波見正(測量G)

監 事： 豊田寛信(造園G)、山口治行(茨城コンサルG)

理 事： 安原一哉(運営委員長)、立原信永(自治体G)

鈴木正義(建設G)、関輝喜(茨城コンサルG)、長岡樹(造園G)、薬袋正明(建設コンサルG)、

三上辰次(都市計画G)、飛田信哉(地質調査G)、稲沢秀行(鋼橋G)、山本賢治(ピ - シ - G)

また、そのほか運営委員として、総務班、事業班、広報班、分科会班の各班に対し各 グル - プから総勢52名、事務局に6名の方が選任されました。よろしくお願いたします。

2. 第1回研究会が開催され、各グル - プから発表が行われました。

総会に引き続きまして、午後2時から同会場において第1回研究会の発表が行われましたが、今回は、本研究会の分科会の活動がスタートする前の発表ということでしたので、賛助いただいている

それぞれのグル - プの代表の方から、現在取り組んでいる課題や研究について発表していただくことになりました。

発表者と発表題目については次の通りです。

(グル - プ名) (発表者) (講演題目)

1. 大学G: 横木裕宗: 茨城県の地域環境評価と問題点
2. 自治体G: 園部武正: 茨城県の土木史跡を廻って
3. 建設G: 井坂 実: 社会資本整備と公共事業の役割
4. 茨城コンサルG: 関 友春: 河川分流の問題と対策
5. 造園G: 櫻村英紀: 園芸の効果と園芸療法について
6. 都市計画G: 高野 賢: 「中心市街地の振興」& 「中心商店街の活性化」
7. 測量G: 司代洋和: 高度情報処理(GIS)について
8. 地質調査G: 伴 夏男: 目的に応じた地盤調査手法
9. 鋼橋G: 五十畑弘: 最近の鋼橋の動向と今後へ向けた課題
10. ピ - シ - G: 石沢 孝: PC構造物の省力化とコスト縮減

なお、次回から開催されます研究会では、分科会での活動の成果を中心に発表が行われる予定です。

3. 各班の活動内容を報告します。

・8月6日(木)、午後2時から水戸市三の丸公民館の会議室において、「分科会班」の打ち合わせが行われ、テ - マや取り組み方などの議題について討議しました。

(参加者24名)

・9月16日(水)、午後3時から水戸市カメヤホテルの会議室で、「総務班」、「広報班」、「事業班」、「分科会班」の各班長・副班長による幹事会を開き、運営委員会で討議する議題と内容について打ち合わせを行いました。(参加者11名)

・9月29日(火)、水戸市の茨城県自治会館の大会議室において第3回運営委員会を開催し「研究会だより」の発行、分科会テ - マと募集について、秋季講演会の内容などについて討議を行いました。

(参加者45名)

4. 平成10年度の会費の納入を御願いたします。

会費の納入の方法は、グル - プごとにとりまとめをお願いしておりますが、まだ、賛助会費等未納のグル - プがございましたら、ぜひ振り込み手続きをお願いいたします。また、「茨城県建設技術協会」を母体とする会員の皆様には、職場ごとに会費をとりまとめていただきまして手書きの振込用紙を使用して職場名または事務所名でご送金下さい。

5. 分科会活動に参加しましょう。

9月29日の第3回運営委員会において、今年度の分科会活動のテ - マが次のように決まりましたので、会員の皆様で参加をご希望される方はぜひ登録をお願いしたいと思います。なお、具体的なご案内は、各グル - プの代表連絡者の方からありますのでよろしくお願いいたします。

テ - マ1 : 「新全総を考える」

テ - マ2 : 「いばらきの建設遺産をさぐる」

なお、会員の皆様で、ぜひこういうテ - マで取り組んでほしいというような要望や提案がありましたら事務局まで御連絡下さい。(ファックス 029-224-9756 事務局、県庁ダム砂防課 園部宛)

6. ロゴマ - ク等を募集いたします。

本研究会のイメージアップを図るため、略称やロゴマ - クを会員の皆様から募集いたします。応募作品を事務局までお寄せいただき、運営委員会で決定させていただきます。詳しくは、募集要項をご覧ください。

7. 秋期講演会開催します。

12月1日(火)、午後から講演会の開催を予定しております。

講演は3題の予定で、第1点は、先般日本の南にあった台風4号から吹き付ける雨雲によって那須地方に豪雨がもたらされ、栃木県、福島県を始め本県に多大な水害をもたらしましたが、この学術的な調査報告につきまして茨城大学の調査班から報告をお願いする予定です。

第2点は、「イタリアに見る都市景観の考え方」と題して先頃イタリア・ボロ - ニャ大学で半年間研究に携わられました茨城大学工学部の小柳先生の講演と、第3点は、「いばらきの古代人の生活と世界観について」と題して茨城県教育財団の瓦吹先生に講演をお願いする予定です。

小柳先生には、イタリアの現代都市に生かされた歴史的な町並みをめぐる都市景観上の考え方などを中心にお話をさせていただく予定です。

瓦吹先生には、分科会の一つのテ - マである「いばらきの建設遺産をさぐる」に先立つ、もう少し古い時代における茨城の古代人の行動様式から導かれる本県の特長などについてお話しさせていただく予定です。

詳しくは、講演会の開催の案内を致しますので会員の皆様には奮ってご参加下さるようお願いいたします。

8. 「研究会だより」への投稿を募集します。

研究会だよりに「会員のページ」を設けたいと思っておりますので、現在取り組んでいる仕事や研究内容の紹介、本研究会への提案、会員皆様の趣味や日頃感じていること、紀行文、なんでも結構ですので、2,000字以内位にまとめて、グル - プ名、氏名(匿名でも可)を記名のうえ事務局までぜひ投稿下さい。

(編集後記)

研究会だよりは、会員の皆様に研究会の活動の内容をお知らせするとともに、各種情報交換の場としてご利用いただくため、年2回程度の発行を考えております。また、研究会専用のホームページを開設する予定でありますので、研究会だよりと合わせてより充実した情報のやりとりが可能となるよう努力したいと考えております。

会員の皆様には分科会や情報交換などいろいろな面におきましてぜひ積極的な参加をお待

ちしております。